

令和7年度（2025年度）

金沢大学法科大学院

入学試験問題

民 法

B日程入試

（注意）

1. 問題冊子（表紙を含む）は2枚です。
2. 問題冊子は指示があるまで開かないで下さい。
3. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰って下さい。
4. 解答は、鉛筆、シャープペンシル、ペン、ボールペンのいずれで記入しても構いません。
5. 解答にあたっては、どの問題から解答しても構いません。ただし、どの問題についての解答であるのかを答案中に明示してください。

## 令和7年度（2025年度）金沢大学法科大学院入学試験問題

試験科目	民	法
------	---	---

以下の問題について解答しなさい。

### 問題1（10点）

「要物契約」について、解答用紙5行程度で説明しなさい。

### 問題2（15点）

次の〔事実〕を読んで、後記の〔問題〕に答えなさい。

〔事実〕

1. Aは、時価3000万円の甲土地を所有していた。
2. 令和6年4月10日、Bは、甲土地周辺地域で大規模な開発計画があるとの情報を聞きつけ、甲土地の買収を計画し、Aとの交渉が始まった。交渉に際して、開発計画の情報は隠され、Bから新しく火葬場ができるとの嘘の情報が提供された結果、同年5月1日、AB間で代金を1500万円とする甲土地の売買契約が締結され、同月8日、BからAへ1500万円が支払われるのと引き換えに、AからBへ甲土地の引渡しと所有権移転登記が行われた。
3. 同年6月10日、甲土地周辺地域で大規模な開発計画があるとの情報をAも入手したとき、Aは、Bにだまされたと思い、即日、内容証明郵便でAB間の売買契約を取り消す旨の意思表示をし、翌日、Bのもとに届いた。
4. Bは、同年7月1日、甲土地を代金6000万円でCに売却する旨の契約を締結し、代金の半額3000万円の支払と引き換えにCへの所有権移転登記が行われたものの、残額3000万円の支払があるまで引渡しは行われなかった（所有権留保特約はない）。

なお、BC間の売買契約締結に際して、Cは、AB間の事情までは把握していなかったが、不動産取引上要求される調査を十分にはしていなかった。

〔問題〕

上記〔事実〕1から4までを前提として、令和6年7月の時点において、Cが残額の支払を終えていないとき、甲土地の所有権はA・B・Cのうち誰に帰属するか、について論じなさい。

以 上